



ホームページ「Chiaki's home」

江見

千秋

独り言

2001 年

江見

千秋



表表紙の「独り言」の書は、

「書道村」主宰の

川戸翠紫先生に書いていただきました。

今年も、例年どうり初日の出を海岸に迎えに行きました。
毎日のように日の出を見ているのですが、元日の日の出は、なんとなく新鮮で特別な気分を迎えているように思えます。

一方、このようなホームページの更新をくり返していると、なんだかマンネリズムに陥っているような気分になり、新しいものを模索し始めます。

同じことをくり返しているにもかかわらず、あるものは新鮮に感じ、あるものはマンネリズムに陥っていると感じる・・・

1

なぜなんだろう？

広辞林を見ると・・・習慣の意味の一つとして「長い間繰り返しされた結果、その行動が自然に行われること」と書かれており、マンネリズムは「常と同じ技巧だけを繰り返し返して独創的な進歩発展を求めないこと」とある。また、マンネリズムの訳には「わざとらしさ、不自然さ」と言った意味もあるようです。

これからして、習慣とマンネリズムを比べることは意味のないことかもしれないが、確かに、日の出には「その行動が自然に行われること」で「わざとらしさ、不自然さ」と言ったものは無く、素直に感じる事が出来るのではないかと思うのです。特に、

2

初日の出は気分からしても新鮮に感じるのでと思います。

一方、マンネリズムは「技巧だけの繰り返しで独創的な進歩発展を求めない」とのことのようで、日頃の生活でも何とか避けたいものです。

年も新たまり、このホームページも初日の出の新鮮には及ばなくとも、できるだけマンネリズムから離脱すべく、固くなりかけた脳味噌を再度かき混ぜようと思います。

今年も、よろしく願います。

先が心配な「学校のゆとり路線」

2001.1.31

先日新聞（1月25日付け朝日新聞）で「理科が危ない!？」の大見出しの記事が目飛び込みました。

内容は、2002年から始まる学校の完全週5日制とともに「ゆとり路線」を追求する新学習指導要項に対して高まる反発に関する記事でした。

新学習指導要項では、小中学校のほとんどの教科で内容を約3割削るとのことです。理科では、生物の進化や遺伝、イオンなどが中学から消える・・・さらに、高校では理科の各科目が選択になるので「十分に学ばない生徒が増える」と心配され、「理科

が危ない!？」という記事になったようです。

完全週5日制も「ゆとり路線」も悪くはないと思います。

しかし、教科書を薄くしてまで「ゆとり」を作る必要があるのだろうか?・・・と考え込んでしまいました。

自分を振り返ってみると、生物の進化や遺伝の規則は特に勉強したように覚えていませんが、進化の「し」の字や遺伝の「い」の字が、臍げながら脳味噌の隅に溶け込んでいます。これは、多分中学生のころ学んだからだと思います。

脳が何でも吸収するスポンジのような時期に学ばなければ、一生知らないことになってしまうのではないのでしょうか? しか

5

し、全く知らなくてよいということにはならないと思います。

「し」の字、「い」の字くらいは知らないで、自然とつき合う糸口も見つけられない、さらには興味も無くなってしまうのでは、「ゆとり、ゆとり」といっても、何が「ゆとり」か判らなくなってしまうと思うのです。

削るのではなく、「ゆとり」をもって子供に興味を持たせるような指導要項は、なぜ作れないのでしょうか!?

削れば、今でも理科離れや学力低下が心配されていのに、ますます悪化するだろうと思います。世代が進むにつれ、知識が右下がりになるのは寂しいかぎりです。本当に**先が心配**です。

「新指導要項の中止を求める国民会議」に寄せられた署名が

6

5,800人を超えたとのこと・・・ぼくも署名したいものです。



7

まず実行・・・勉強は後!?

2001.2.15

前記 Information に紹介した新しいホームページ「笑工房」で、糸鋸の使い初めを紹介した時、「参考書を読むのは後回しにし、とにかく切ってみた・・・」と書きました。

これを書いた後暫くして、あるラジオの番組で、ある酪農家の話として「農業は教わるものでなく、作業して覚えるのも・・・教わると知識はそこまで!」と言った話を耳にしました。

また学生時代に、研究室の助手から「本はまず目次から読んで、なにが書いてあるか自分で想像しろ・・・そうすれば、理解

8

が早い！」とよく言われました。

それぞれの言葉は違うが、「まず実行してみる・・・成功も失敗もあるだろうが、その後教わると身に付くのが早い！」ということとです。

その理由を助手の言葉で言うと、「目次を読んで、各章・節に何が書かれているかを考える。その後読んで、自分の考えと合っている内容であれば「もう知っているヨ！」ともう覚えなくて良い、間違っていると「ナルホドそうか！」と反省すれば、間違っている自分の考えと書かれている内容とが入れ代わり身に付く・・・。

知識を詰め込んで脳が疲れ、手足まで指令を出すのが遅くなるより、手足が間違っって被害に会い、脳を叱咤激励する方が、手足と脳の関係プレイが巧くゆくのかも知れない・・・

受験勉強とはまったく逆の考えであるが、この方が脳の軟化を遅らせるような気がします。これからこの方法を大いに活用したいと思います。

これは、何も考えないで手を出すのではなく、自分で充分考えた後手を出すことなので、最近話題になる「ヤッチマエ！」と全然違います。念のため！



先日TVで、今話題の「ものづくり大学」の入学試験の様子がレポートされていました。

番組の途中から見たので、断片的にしか覚えていないが、大学を卒業した人が大工を志し、ある棟梁のもとに弟子入りし、今回「ものづくり大学」の入学試験を受けた内容でした。

弟子入りしたこの人には、家の設計図を描く仕事を与えられたのですが、何時も棟梁から「こんな難しい図面は大工は読めない・・・」、「偏差値なんか何の役にも立たない、知識も役に立たない、職人に必要なのは知恵だ！」と絶えず言われているのです。その知恵を学ぶために「ものづくり大学」を選んだようです。

11

結果は合格し、棟梁もその学校の先生になるとか・・・。

広辞林で知識と知恵を見ると・・・

知識は「知ること、認識、理解。認識によって得られた成果。知っている内容。ものしり。知りあい。」とある。

一方、知恵は「物事の価値をよくわきまえ明らかにする心の作用。物事を計画し処理する能力。」とある。

確かに、知識はあってもそれだけでは成果が出ない。物事の価値をよくわきまえたり、計画し処理する能力の意味を持つ知恵が大切なことが良く解ります。

自宅の居間に、入社当時の社長であった倉田さんが書かれ

12

た「易学而難行」のレプリカが掛かっています。これも、物事を知っているだけではダメで、難しいが実行しなければ意味がないと解釈しています。

とにかく、知識の吸収がおぼつかなくなってゆく脳味噌をあてにせず、知恵を精一杯働かせ、より楽しい毎日を送りたいものです。

それにしても、「ものづくり大学」に関連した政治家の悪知恵には困ったものです。政治主導を口にする政治家が、私腹を肥やすことだけにリーダーシップを発揮されるのは、我々庶民にとって、まったく腹立たしいことです。

13

地球上に人類が居なかったら?!

2001.3.14

地球温暖化、オゾン層破壊、森林破壊・・・身近なことでは有明海のノリ不良等々人類の営みによって地球の自然が壊れ、その結果が人類を傷めることにもなっている。

このような現状を見聞きしながら、ふと「地球上に人類が居なかったらどうなっているかな?」と考えてしまった。

しかし、あくまでも仮定の話であるから解はないと思っている。また、当然人類以外の生物が活動し、今の有様と違った様相になっているはずである。

まず、人類が居なかったら、世界至る所にある都市建物、

14

舗装道路、港等々自然を加工した構造物は存在しないはず？

勝手な想像であるが、その場所は、火山の爆発、地震などによる地殻変動は人類が居ても居なくても変わりはないと思われるので別として、いわゆるジャングル状態か？砂漠状態か？・・・どちらにしても、野に住む動物・植物、水に住む動物・植物は強食弱肉の争いはあると思うが、地球環境を破壊する方向には行っていないのではないかと思う。弱肉強食といっても、人間のようには必要以上に快楽や富みを求めることも少ないと思うので、あるバランスの取れた状態で、それぞれが生き延びているのではないかと思われる。

こう考えると、人類が居ない方が良くように思える・・・？

15

しかし、人類も地球に住む一種の生物だから、バランスの取れた状態で仲間入りしたいと思う。そのためには、もう少し地球に迷惑をかけないよう、また他の生物にもあまり迷惑をかけないように暮らしたいものである。

では、自分として何から始めるか？・・・まずゴミを少なくしよう！



16

アッ地震だ！・・・机は？！

2001.3.31

帰省中、先日の中四国地方で起こった地震に遭遇した。
その時、まず考えたことは・・・「机はどこだ？」でした。
しかし、周りには机はなかった。取り敢えずガラス窓から離れ、
電柱や立ち木の揺れを見ていた。

揺れが収まり、付近には被害も無く一安心・・・。

ここで気が着いたのは、小学校に入學してからサラリーマンを
卒業するまで、毎年繰り返し返していた「地震！机の下にもぐれ！」
の訓練が身に付いていたことです。

確かに、今回に地震の被害をニュース等で見聞きすると、近

17

くに机がありその下にもぐり込んでいたら、多くの人が助かった
のではないかと思われます。

しかし、残念ながら地震は何時起こるかかわからず、起こった時近
くに机があるとはかぎらない・・・その時どうすればよいか？

繰り返し経験した事柄は、それが仮想であっても何時の間にか身
に付き、とっさに遭遇した時、閃くものである。しかし、その事
柄の繰り返しが多ければ多いほど近視眼的に閃き、他のことが
思い出せなくなるように思う。

最近、いろんな所で話題になっている危機管理についても、常
日頃の繰り返し訓練が必須ある。しかし、その内容はワンパタン
でなく、いろいろな場合を想定して行っておく必要があると

18

思う。

人が生活している限り、残念ながら事故に遭遇することは避けられないと思う。その時、被害を最小限に止めるため、いろいろな場合を想定し、とっさの判断ができるよう「備えあれば憂えなし」と日頃から訓練しておきたいものである。「備え！」もハードウエア的なものであると地震などでは壊れて役立たずの場合があるので、**日頃の生活の知恵**を大事にしておくことがまず必要です。

一呼吸おいての対処が肝要！

2001.4.14

先日の芸予地震の発生直後から「TV」のこの地震に関する報道を見ていて感じたことですが・・・

地震発生のテロップが画面に出てから暫くして、特別番組的に地震に関する放送が始まりました。

初めは、震度の報道と合わせ発生地に近い放送局からの状況報道、続いて中央局のアナウンサーが震度の大きかった町の役場に電話を繋いで、状況取材のナマ放送・・・このナマ放送がチョット気になったのです。

発生したのは、土曜日で役場は休日だったようで、町の職

員も地震の発生で非常召集で駆け付け、対策本部を立ち上げたばかりのところへの電話取材で、状況把握がまだ充分でなく電話口の方も困っていたようでした。にもかかわらず、何処かの総理大臣のように「……………」でなく、横の人にも確認しながら答えていました。アナウンサーは私の職務とばかりに次からつぎへと質問をしていました。

ここで思ったのは、突然の災害の発生で、その調査や対策に大わらわの当事者に、報道が職務とはいえ、ながながと取材するのが良いのだろうか？ ……と。

このような取材は、報道の義務があると言っても、災害に直面している当事者に**迷惑を掛けている**のではないかと思ったのです。せめて、状況の把握をしている途中であることを感じれば、

21

「まず、把握に努めてください。10分後に改めて電話を入れましょう。」で電話を切るべきでないかと思っています。

確かに、当地に親戚、知人がある方は、一刻も早く状況を知りたく、それに対処する報道の急ぐ気持ちは解りますが、不十分な情報に一喜一憂するよりも、一呼吸おいて、より正確なことを知る方が良いのではないかと思います。そのように導くのが報道の職務だとも思うのです。

とにかく、世界中アット言う間もなく情報が伝わる時代になり、居ながらにして情報が手に入るようになり、一刻でも早く知りたい…………これは誰も願うところですが、このために人に迷惑を掛けることは謹むべきだと思います。

22

とっさの出来事に遭遇したら、一呼吸おいて対処する！・・・
これが肝要のようです。



23

猪に持って行かれた旬の味！？

2001.4.30

4月下旬、新緑の田舎に帰省しました。
早速、旬の竹の子を求めて例年採っている家の裏の竹藪に出かけたが、一本も見つかからない・・・目にしたのは、山道、竹林のあちこちに空けられた多数の穴でした。穴の付近には小さな竹の子の皮の残骸が散乱していました。

近所の人に尋ねると、猪が掘りに来たのだ・・・とのこと。確かに、まだ地表に姿の現われていないようなおいしい竹の子を見つけ、チャント皮を剥いて、竹の子の刺身を食したようです。

お陰で、例年逸早く竹の子を目にする山道はズタズタになっており、竹藪の竹の根元には深い穴が空けられていました。お陰

24

で、自分の竹藪がありながら、一本も採ることができませんでした。

昨年までは、こんなに一本も採れないことはなく、むしろ竹藪に竹がはびこるのを防ぐため、数本を食べた後は次々に出る竹の子を切り倒していたぐらいです。

昨年の秋には、猪と栗の採りっことを紹介しましたが、竹の子まで持つて行かれるとは・・・山に食料が少ないのではなく、猪もだんだん美食家になっているようです。

人も、限りなく美食家になっている今日この頃ですが、これを真似て？動物までが美食家になり、美味しいものの争奪が始まると、嗅覚などの鋭い野性の動物に人は太刀打ちできないのでは？？

既に田舎の里山のような場所の田畑は作物を守るためフェン

25

ス等柵が張り巡らされ、最近では集落全体を柵で囲むことも計画されているようです。

人間の世界では、いろいろな所で貿易摩擦等が話題になり、昔は戦争にまでなったこともあります。最近では話し合いで解決することだできるようになっています。

しかし、まだ野性動物と交渉する方策はなく、今は人間様が柵を巡らし、自己防衛するしか方法が無いようです。

何とか良い方策は無いものか？・・・と思うばかりです。

4月の下旬からゴールデンウィークにかけて帰省し、家の周りの庭や田んぼの雑草と格闘してきました。

「雑草」と、庭や田んぼに生えて、可憐な花を付け、子孫を増やそうとしている草花を纏めて呼ぶのは気の毒だが、放って置くと庭は庭でなくなり、田んぼはその役目をしなくなるのです。仕方なく、雨の降らない日に刈払機で刈り取り、除草剤を撒き、雑草と格闘しなんとか地面が見えるようにしたのです。

一方、先の更新時紹介した郷里の物産館「きんちやい館」では、種から手塩にかけ育てられた「山野草」が販売され、愛

27

好家を買われているのです。

売られている「山野草」も庭や田んぼに生えている「雑草（本当はそれぞれに名前があるのですが）」と何ら区別できない仲間の筈です。ここで、「なぜこうなるのだろうか?」と考えたのです。

こなるのは、どうも人間様の勝手なようです。

最初は、野の「雑草」の中に見つけた、気に入った草花を採ってきて飾り、さらに綺麗にしようと改良し、人々が育て商品にまですたのが「山野草」のようです。従って、人が水をやりたりして世話をしないとすぐ枯れてしまう。

一方、自分の子孫を残そうと、人間に負けてはならじと自然

28

と結託し種をまき散らし、人間の領域まで蔓延ったのが「雑草」
のようです。

これによく似たことは、人間の世界にも見られるように思えます。「憎まっれ子世に憚る！」にはなりたくないが、一人立ちできない者にもなりたくない・・・まあ、人に迷惑をかけない範囲で、自分の力で楽しい生活を切り開いて行きたいものです。



趣味の品予約買って緊張す

2001.5.31

このホームページでも紹介しておりますように、趣味でいろいろな木工作品を制作し楽しんでおります。

制作した作品は、自宅で使ったり飾ったり、人に進呈したりが主ですが、一部は故郷の物産館「作東吉野きんちゃん館」に置かせていただき、いろんな人に見てもらい、時にはお買い上げいただくこともあります。

しかし、どれも気が向いた時に作り、作ることを楽しむ・・・と言った、まったくの趣味の範疇です。ところが、以前紹介しました「きんちゃん館」開館1周年を記念した文化祭に展示した、木象嵌を施したコースタを2人の方からそれぞれ10ヶづつの

注文予約を受けたのです。

趣味と言いながらも、自分の作品に目を止めていただき、注文をいただくことは大変嬉しいことです。

しかし、嬉しいと同時にチョット緊張しております。

それは、気の向くままに作っている、何時出来るかわからない・・・納期の要求のない予約と言いながらも、作ることを約束してしまったのだから趣味の範疇の外になってしまったのです。

「頑張って作らねば・・・」と思っても、日頃の癖か、一つのこと熱中できず、気が焦るばかりで品物はなかなか姿が見

31

えません。

同じ仕事でも、趣味と引受けたのでは、こんなにも違うものか！・・・と思う今日この頃です。



猫の額ほどの庭に、朝からよく雀が来ます。

その中に、頭の毛が白い雀がいます。その特徴から他の雀と区別できるのですが、この雀は他の雀とあまり群がらず、1羽で行動していることが多いようです。

一方、庭に面したベランダに犬が繋がれています。犬が届く位置に餌の入れ物があり、朝と夕方、ドックフッドが盛られます。

雀や鳩が、このドックフッドを頂戴しによく来ます。しかし、2、3羽に近付くと、犬は横取りされまいと立ち上がり吠えます。

頭の白い雀も1羽でドックフッドを頂戴しによく来ます。

33

最初のうちは、この雀に向かっても、近付くと犬は吠えています。た。

ところが、最近この雀が、餌の入れ物の縁にとまり、ドックフッドを口にして持ち去っても、犬は、ジーンと見ているだけで吠えない時が多くなっているように思えます。「1羽なら見逃してやろう！それも頭の白いやつは！」と犬が思っているかどうかは判らないが、静かな相手（ヒヤヒヤしているとは思いますが？）には静かにしておいてやろうと思っている？？ように見えます。

世の中、醜い既得権争い、自分の領域を犯すやつは殴りつける、自分の言うことを聞かないと子供を虐待する・・・等々、まさに自分の縄張りを犯すものは断固排除する、特に弱いものに対し

34

してのこのような事件が毎日のように報じられています。
このような事件を耳にしながら、頭の白い雀と犬との様子を見て
いると、なんだか複雑な気持ちになります。

人も、自分の生活を守るための縄張りもある程度必要がとは思
いますが、自分の生活がなんとかできておれば、縄張りは緩めて
良いのではないかと思います。
特に、弱い相手には、縄張りで垣根を作り、排除するようなこと
は止めたいものです。

メダカの学校も崩壊?!

2001.6.30

6月後半に田舎に帰りました。

既に、田植えは終り、一面に青田が広がっていました。それは昔
と変わらない里山の風景そのものでした。

しかし、昔には想像もなかったことを目にしました。

それは、隣接の町のJAの店にメダカが売られていたのです。

子供の頃は、母親の被っていた日本手拭を借り、友達と小川に
行き、ズボンの濡れるのも気にせず、各々が手拭の片方づつを持
ち、川藻の下に集まっているメダカを掬い、川藻の入ったバケツ
に急いで移すのが、子供の楽しい遊びのひとつだったのです。

バケツのメダカは、何時のまにか母親が川に帰っていたのか、

気が付くとメダカは水ごと居なくなっていたように記憶しています。

そう思いながら、昔遊んだ小川に行って見ると、小川の様子はすっかり変わり、川岸はコンクリートで固められ、昔メダカの学校の屋根となっていた川藻の姿は見る事ができませんでした。メダカの姿も有りませんでした。

メダカの学校も崩壊していたのです。

しかし、この学校の崩壊は、メダカが授業中に騒ぐからでもなく、先生の話を聞かないからではなく、すべて人間様が校舎を破壊し、さらには農薬等でメダカまで住めなくしてしまったのが原因です。今になって、これは大変と、各地で、昔のような人と他の動植物が共生できる里山を取り戻そうとの動きが出てきております

37

が、一度無くしたものは簡単に戻ってくれません。

メダカの学校の崩壊を改めて実感した今、人の学級崩壊を対策するだけでなく、他の動植物の生活をも崩壊させないように努めなければならぬことを痛感しました。

また、そうすることが、人の学級崩壊を防ぐことにつながるとも思うのです。

と言うのは、小川の川藻を屋根としたメダカの学校を見た子供達は、授業中先生の話をよく聞き、里（人）と山（動植物）の共存する生活を楽しんでくれると思うのです。

政治家の方々、行政の方々、公共事業の名の基に、子供達が動植物へ優しく接する場所を壊さないでください。

前回のこのページの更新で、「メダカの学校も崩壊?！」の独り言を言いました。

その後、数日経ったある夜のNHK番組「深夜便」で童謡が特集されていました。

自分は、子供の頃からの超音痴で、歌とは全然関係が無かったのですが、深夜ラジオから流れる童謡に、つつい耳を傾けてしまいました。

それは、耳にする童謡のほとんどが、懐かしい里山を思い出させてくれるものだったからです。里山は、里の「人」と山の「動植物」が仲良く共存する場所なのです。

最近はその場所も、先の「メダカの学校も崩壊?！」で言ったように、どうもギスギスした場所になってしまったようです。

童謡を耳にして、里山の様子が歌われているものが沢山あることを改めて知りました。早速、柄にもなく童謡唱歌集を買ってきて眺めてみると、200曲の中の半数近くが、里山の動植物を詠んでいました。

しかし最近、この童謡も日頃あまり耳にしなくなっています。子供が歌っているのもほとんど聞くことはありません。「深夜便」の特集に耳を傾けるのも無理のないことのようにです。

「メダカの学校」も童謡の世界にしか無くなる・・・、「七つの子」や「夕焼け 小焼」けのカラスも都会に出て来て人に嫌われ

る・・・、「ふるさと」の「かの山」も「かの川」も荒れてしまつて、歌詞にあるように「夢」だけになっている・・・。
このように、「人」と「動植物」が仲良く共存する里山の風景は、残念ながら、童謡の中にしか残っていないようになっていきます。

今まであまり縁のなかった童謡ですが、これを機会に、童謡の中にでも里山を忘れ無いようにしたいと思います。



地球温暖化は止められるのか?!

2001.7.31

先ずは、

暑中お見舞い申し上げます!

これは、独り言でなく、心を込めてのご挨拶です。

それにしても、7月の上、中旬は暑かったですね!

まるで、気候変動防止枠組みを決める「京都議定書」を批准するしないを議論している人類に、「何をしているんだ!」とばかりのシヨックを与えるような暑さでした。

しかし、なんとか日本がC O P 6議長案を受け入れると、気温も心持ち下がってくれました。これも一時で、また暑さか戻っ

て来るとのこと・・・

地球温暖化防止はできるのだろうか？

「京都議定書」で日本は88～12年の年平均温室効果ガス排出量を90年に比べて6%減らす約束をしている。しかし、96年の排出量は90年より6.8%増えているとのこと。

目標達成が厳しいというのではなく、できないのではないだろうか！？

こんな大変な状態にありながら、「議定書」を「批准する、批准しない」の言葉だけが、TVや新聞を右往左往しているだけで、「・・・しよう！」とか「・・・しろ！」との具体策が何も語られない。

こんな時、70年代の石油危機を思い出します。

当時は、対象が「石油」と身近なものであったからかもしれないが、街角のネオンの点灯の自粛、冷房温度の高目設定、半袖背広の流行・・・等々エネルギー節約の風潮があちこち見られました。

しかし、気候変動防止に対しては、その対応策が国民みんなに浸透しているようには見られないのです。

楽だからと自動車で出かける、自動車が走り易いように道路を舗装する、自動車の中は暑い、暑いからクーラーをフル回転する、熱を出す、排気ガスも出す、舗装道路は熱もガスも吸収しない。暑い！アツイ！・・・

夜も、「ここにお出で！」とばかりにネオンの花盛り・・・

地球が熱病に掛からないよに、もう少し工夫、節約、ガマンはできないものだろうか？ できるはずです！

まず、暑さとガマン比べをしてクーラーの使用を少なくしよう！

また、暑さとガマン比べをすることが、多少温暖化しても、それに順応化する手助けになるのではないかとも思うのです。

とにかく、暑さに負けないよう頑張りましょう。

同時に、地球が熱病に掛からないよに、工夫、節約、ガマンをしよう！

パソコン攻略は自己流操作が一番！

2001.8.15

8月に入り、パソコン初級フォローアップ講習が始まり、スタッフの一員として参加しました。そのためのリハーサルや講習会で、いろんなことを知りました。

その一つが、アプリケーションの「ヘルプ」や書店に数多く並んでいる参考書を精読するとわかることですが、同じ結果を出すための操作方法がいろいろあることを改めて知ったことです。

例えば、新規文章を作成しようとして、新しいウィンドウを開く時、「メニューバー」から操作しても、「ツールバー」の「ツールボタン」を使用しても可能です。

あるいは、コピー、切り取り、張り付けなどの操作を行うにも、「メニューバー」からマウスで操作してゆく方法やキーの組合わせによるショートカットによる方法もあります。

このように、多様な操作方法があるが、日頃、自分はある特定の方法しか使用していないようです。

講習会などで人に説明する場合、自分が日頃行っている方法を説明してしまうことが多くなります。しかし、今回のようにボランティアのような幾人かのスタッフが、入れ代わり説明するような場合、「どれが正しいのかな？」と考えることがあります。受講している方にとっては迷惑なことですが、答えは「どれも正しいのだよ！」と言うことにもなります。

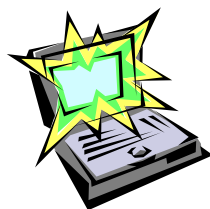
スタッフとしてお手伝いしている間にも、お互い「人の振り見て我が振り直せ」の諺で言われるように、いろいろ勉強になります。

しかし、家に帰り、パソコンに向かうと、やはり操作は自己流になっています。やはり、日頃から身に付いた方法が、自分にとって一番効率の良い方法のようです。

しかし、諺の言うように、より良い方法を知ったからには、何とかして取り込みたいものです。

そうして、自己流をさらに磨くことが、パソコンを攻略する最も良い方法のようです。ブラインドタッチは無理だが、考えなくても指先が動いてくれることが、最も効率の良い操作だからです。

これには自己流が一番です。



人と野獣の共生は無理なのか?!

2001.9.1

以前もこの欄で書いたことがあります、田舎では人とイノシシやシカとの縄張り争いが今年も切実でした。

お盆に帰省し、目にした光景は、稲田や豆畑の周りを囲んだ、イノシシやシカ防御用のトタン板や電線（高電圧をかけておき、触るとショックを与える防御柵）が昨年以上に張り巡らされていたことです。さらに農家の方々は、日が暮れてからも、柵の増設におわれておられました。

にもかかわらず、朝になると、まだ柵の無い稲田にはイノシシの夜の運動会？のなごりが見られる有様です。

休耕田を利用した、豆作りの田を狙っているのはシカだそう

です。それも、高価な黒大豆がまづ標的にされるそうです。シカも黒大豆の枝豆が好物のようです。

自分の生まれた家の庭にも、数多くの足跡があり、裏の畑（今では雑草畑？ですが）には、イノシシの泥んこ浴をした後が散見されました。

童謡にある

「くまにまたがり お馬のけいこ はいしどうどう はいどうどう」

「けだもの集めて 相撲のけいこ はつけよいよい のこった」
のような光景は、想像すらできない様子です。

「クマ」といえば、故郷の里山にも居るとのこと、8月16日頃から数回にわたって、町の防災無線で注意情報が流されていました。

里山に出かけた「クマ」が、イノシシやシカの防御用に張り巡らされた柵のため、山奥の自分の住処に戻れなくなった？のではないかという人もいました。

昔は、こんな人と野獣の縄張り争いは、あまり聞かなかったように思います。

やはり、何かが変わっている・・・変わったのはなんだろう？？

田舎が過疎になり、昔ながらの里山が無くなったからではないだろうか？

もう元に戻るのは無理なんだろうか?・・・
戻す方法が無いとすれば、少しでなく、大変残念なことです。



世の中どうかしている???

2001.9.19

この頃、TVや新聞を目にするのがイヤになってきた・・・
なぜか????? 「悪い事」が多すぎるから・・・。

窃盗、強盗、誘拐、虐待、殺人、詐欺、汚職・・・に始まり、
環境破壊、地球温暖化、景気後退、失業率アップ、最近では狂牛
病・・・

ついに、民間人を巻き添えにした同時多発テロ等など、「悪い事」
でTVの画面、新聞の紙面が埋まっている。

「いったい世の中どうなっているのか?」と叫びたくなっ

てくるこの頃です。

時々、新聞の紙面を「良い事」「悪い事」に色をぬり分け、その面積を比較したいと思うが、そうするまでもなく、「悪い事」の記事が大半を占めているのは明白です。

世の中を見渡すと、会社員も、商店主も、農漁業者も・・・大多数の人が、汗まみれになりながら働いているのです。良い子もほうぼうに居るのも確かです。したがって「良い事」も多々あるはずです。

どこにその食い違いがあるのだろうか・・・？

「こんな事をしてはいけないよ！」と警告の意味で報道し

55

ているのだろうか？

そうであれば、これは「悪い事だよ！」と記事の終わりに書いてあってもよいはず・・・しかしあまり見られない。逆に、悪事の手解きをしているような解説記事もある。

「悪い事」は市民にアピールするのだろうか？

そうであれば、見聞きする我々も反省する必要がある。それにしても、これでもか、コレデモカ・・・と「悪い事」が突き付けられるとイヤになってしまふ。

「良い事」も、無理をしても積極的に報道してほしいものです。そうでないと、物事のマイナス面だけが脳味噌を侵食し、世の中をますます悪くするのではないのでしょうか？

56

童謡を口遊み（自分は音痴で歌えないが）、それに耳を傾けたくなるような内容の画面・紙面を多くして欲しいものです。そうすれば、TVを見るのも、新聞を読むのも、楽しくなるはずです。

ボヤキは横に置いて、特別番組でなく、「きょうの料理、おしゃれ・・・」を楽しんでいるところです。

あれもこれも「**油断大敵!**」

2001.10.1

アメリカでの”同時多発テロ事件”、国内での”狂牛病”・・・どれも大変な出来事である。

テロ事件は、加害者がどのような主義主張を持とうと、罪のない市民の命を奪うのは許しがたい行為である。

狂牛病は、日頃美味しいと口にしていた牛肉が、なんだか解らないが心配だ?！・・・と、真相が解らないままにマスコミノ報道に載って来る。

どちらも、加害者の顔、居場所が解らないまま、噂だけが聞こえてくる。

テロ事件は、残念ながら、世界のあちこちで日常茶飯事起こっており、狂牛病は、数年前ヨーロッパで大問題になった事件である。にもかかわらず、想像すらしていなかった・・・でなく、想像もしようとしなかった所に起こった。

どちらも、自分の所では起こるはずはないと思っていたのである。どう見ても「**油断大敵!**」を証明したようなものである。

「**危機管理**」という言葉はよく耳にするが、それは事件が起って直後耳にすることであり、暫くすると忘れてしまう・・・「**喉元過ぎれば熱さを忘れる**」の諺どおりである。

しかし、逆に「人はいろいろの事を忘れるから生きていけるのだ」ともいえる。

自分の身にも災難はやって来ることを忘れず、自分の身に降

59

り掛かる火の粉を自分で払うためには、少なくとも「**対岸の火災**」を耳にするたびに、「その時自分は どうする?」と考える癖を付けておく必要があるそうだ。

とにかく「**油断大敵!**」は禁物!・・・とは行っても、緊張の連続ではたまらない! 危機を事前に察知していただいている行政の方々も、危機は目の前にあるのだとの気持ちで五感を働かせ、油断しないで情報をキャッチし、我々の緊張を少しでも和らげるようにしてほしいと思う。



そんなに急いで何処へ行く？

2001.10.15

10月はじめに故郷に帰って見たら、稲田はほとんど刈り取りが終わっていた。

自分が子供の頃の50年位前は、秋祭りが10月の20日頃で、その頃まだ稲穂は頭を垂れ、一面黄金の稲田が広がっていたように思う。

小学校の運動会も秋祭りの翌日だった記憶があります。しかし、運動会も既に終わっていた。

時が経つのが早いのか？・・・しかし、地球の動きはそんなに変わっていない筈・・・であれば、人の気持ち及早まって

61

いるのではないだろうか・・・？

たしかに、周りをみれば、いろんな食材が季節を問わず店頭に並んでいる・・・自然は、春夏秋冬の季節を規則正しく刻んでいるが、人の気持ちだけが先にさきに行っているように思える。

キュウリなどの野菜も、本来の味・食感もないうちに摘み取られ、これが美味しいのだと店頭に並ぶ。これを食べないと「通」でないと言われ・・・遅れてはならじと人は買う・・・だから生産者は、温室まで作って生産・出荷する・・・先を争っただけで、本当の食材の美味しさを口にしていないように思う。

日本国民の代表である国会では今、テロ対策特別措置法案が緊急審議されている。テロ防止の面からは1日も早く審議され

62

る必要があると思うが、急ぐあまり、早く大きくなれよとばかりに味も食感も無視したように、収穫を急いでいないだろうか？・・・もう少し、口にする時の美味しさを考えて育ててもいいのではないかと思う。

とにかく、世の中、一番乗りが最善のような気運が蔓延しているようにみえるが、ものには最適の収穫時があることを知り、最も美味しい時に口にした方がよいと思うが、如何でしょうか？

久しぶりの頭の体操！

2001.11.1

久しぶりに、頭の体操をしました。

それは、参加しているボランティアグループ「湘南二宮・ITくらぶ」が、発足後6ヶ月が過ぎ、その間の活動状況のレポートのまとめを頼まれ、久しぶりに脳味噌を動かしたのです。

現役時代も文章の編集は得意な方では無かったのですが、さらに数年同様なことをしないで過ごしたためか？、既に老化現象なのか？（そうは思いたく無いが・・・）とにかく、入稿された原稿を読んで行く側から忘れ、文章を整理するのに悪戦苦闘したのです。

また、会社時代と異なり、原稿を書く人がいろんな経験をされた方達で、文書の書き方、用語の使い方もバラエティーに富み、脳味噌がいつそう面喰らったようです。

一方、原稿を「Word」の添付ファイルで受け取り、パソコンで編集したのですが、多様になったパソコンの機能を勉強しながら取り組んだため、文章がアッチへ行ったり、コッチは来たりと賑やかなことでした。

とにかく、久しぶりの楽しい??頭の体操でした。

日頃、手先を動かすのは嫌いではないが、本を読むのが嫌い、文書を書くのも嫌い・・・と言った毎日を送っていると、やはり脳味噌は沈澱してしまっているようです。手先を動かすだけ

65

では、脳味噌は攪拌されないようです。

老化現象を遅らせるためにも、改めて、絵本からでも読んでみようと思っているところです。

思っているだけにならないようにするには、何が特効薬だろう?

こんなことを言ってるからダメなのかな? 反省!!



今回も、次の「新しい作品」に紹介した、おもちゃの椅子を作りました。

この「おもちゃの椅子」を、「新しい作品」として紹介するのは、少し気が引けるのです。それは、同じものをすでに、40個近くも作っているからです。

同じものを繰り返し作るのは、作った当初好評をいただき、それではもう少しと型紙を作り、それを基に作り始めたからです。

作り出すと、同じものであるため、だんだん要領を得て、また作る・・・この繰り返しで手作りと言いながら、たくさん作ってしまったのです。

趣味の作品としては、**手作りの味**が、最も大事な要素思いながらも、欲しいと言われると作ってしまう・・・なんだか、まだサラリーマン時代の作り方が染み付いているようです。

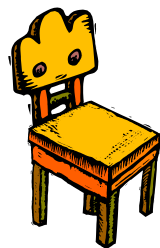
この「おもちゃの椅子」も、最初は素材の板の上に形を描き、現物合わせで作ったのです。

手作りの味を出すためには、このように素材に直接手を加え、組合わせは現物合わせが、最も良い方法と思うのですが・・・新しいアイデアが浮かばないと、つい同じものを作ってしまう。

自然には、雲の形、モミジの色、落葉の虫の喰った跡など・・・、どれ一つ取っても、**型紙が無く**、同じものがない！これが

本当の手作りの味ではないだろうか？
びたいと思う次第です。

頃は晩秋、篤と自然に学



自然はマイペース！

2001.12.1

「新世紀の幕開けだ！」と賑やかに迎えた2001年も、師走を迎えた。

この1年、「聖域なき構造改革だ！」の掛声」「同時多発テロ事件」「アフガニスタンの空爆」「狂牛病」「景気低迷」・・・等々、毎日TV、新聞等マスコミを賑わした話題は数限り無いが、今年も例年どりの冬が来た。

春の芽生え、熱かった夏、紅葉の秋そして雪の便りを聞く今日この頃・・・自然の移り変わりは「人々の騒がしさを無視したように」、また「人々は何をゴチャゴチャやっているのかと横目で見ながら」、何時ものペースで進んでいく。

人々の心を和ませてくれる自然の移り変わりのペースを乱しているのは、人間のエゴのように思われる。

地球が貯えた石油を搾り出し、それを燃すことで人は潤いでいるが、その結果、地球を温暖化と言う熱病にしている。山々に育んだ木々を、人々に剃り取られ、地面は皮膚病になっている・・・これで良いのか？と、エラツソウなことを言っている自分自身も、趣味で木材を使い、自動車に乗っては石油を使っている。したがって、自然に「申し訳ありません！」と頭を下げるしかない。

どうすれば、自然と仲良く共存できるのだろう・・・??

問題提起だけで、頭を抱え込んで悩んでいても、自然は喜

71

んでくれない・・・

先ずは、身の回りから、またできることから、自然を傷つけないよう心掛け、自然が恵んでくれるものに感謝し、自然のペースを有難く受け入れたいものである。

と同時に、自分の生活にも・・・気持ちだけでも・・・、目の前だけを気にするのではなく、自然のように変わることのない、ゆったりとしたペースを学びたいものである。

2001年も終わるー!

2001. 12. 15

21世紀の最初の年として、気持ちも新しく迎えた2001年も、
後10数日で終わる……。

ちょうど1年前の、この「独り言」を見ると、

「2001年の初日の出は格別か?！」という題で、「20世紀が終わ
り21世紀になるのは確かですが、世紀と言ったスパンが寿命よ
り長いため、ピンと来ないのかもしれない。」

一つのマイルストーンとして考えるとよいとは思いますが・・・、
このような世紀変わりを経験できない人も居ることを思うと、何
のマイルストーンなのか?と思うのです。」と

73

疑問符を付けて、世紀変わりを感じていました。

この1年を振り返ってみると、いろいろな出来事があったが、
気分的には、過去の20年と変わり無かったように思われます。

世の中は、改革を旗印とする小泉内閣の誕生、同時多発テロ事
件によるいっそうの景気後退、狂牛病処理のお粗末さ等など、マ
スコミを賑わすものは沢山あったが、1日中同じようなニュース
を見聞きしていると、なんだかイヤな気分になることが多く、こ
れも例年と変わりません。

しかし、今年は一つ楽しいことがありました。

74

それは、二宮町のボランティアグループ「湘南二宮・ITクラブ」に参加したことです。

このクラブは、以前にも「TOWN」ページ等で紹介したことがあります。今流行の「IT」に興味を持つ者が、少しでも町民のみなさんのIT習得を支援をしようと集まったグループで、会員の相互研鑽を行なうとともに、各種パソコン講習会の支援や開催を行なっております。

これに参加して良かったのは、会員同士でいろいろな情報交換ができ、新しい知識が習得できると共に、それらを町のみなさんに教えることで、パソコンを媒介として、いろんな方といろいろな話題の会話ができることです。

このことが、自分にとっては、新しい世紀を迎えたことだ
75

ナー・・・と、一年を振り返る今年の年の暮です。来年からも、このボランティアグループを介して、楽しい月日を送りたいものです。

一年間、拙いホームページにもかかわらず、ご訪問いただき有難うございました。

新しい年も頑張りますので、ご最員の程、よろしく願ひいたします。

良い新年をお迎えください。

